

東京・地理教育研究会2007年12月例会 法政大学地理学会・協賛

小松正之 鯨と魚を大いに語る

小松正之さんは、2002年9月例会に続く2回目の登場です。1977年に農林水産省に入省。水産庁にて、幅広い水産行政に取り組み、特に国際派として日米交渉やさけます漁業交渉などで活躍されました。1991年～2004年は、IWC(国際捕鯨委員会)の日本政府代表代理。その間、2001年～03年は、FAO(国連食料農業機関)水産委員会議長(日本人で初めて)を勤められました。

水産庁時代は「クジラの小松」と異名を取るほど、捕鯨問題のエキスパートとして、調査捕鯨を拡大し、文化論を展開して、日本の立場を浸透させました。そして、商業捕鯨再開に命をかけて反捕鯨派と戦ってこられました。「反捕鯨派から最も嫌われたが尊敬される男(2005年10月ニューズウィーク誌日本版『世界が尊敬する日本人100』に選出)」だったわけです。

また、クジラのみならず、マグロについても、ミナミマグロ国際裁判で勝訴するなど国際会議で活躍されました。さらに、水産庁漁業資源課長時代は、日本の海の再生にも尽力されました。2004年には、東京大学より農学博士号を授与されました。著書も多数で、その明快な文体には多くの愛読者がいます。

現在は、独立行政法人・水産総合研究センターの理事の職にあられますが、その職域を越えて、衰える日本の水産業の改革のため、さらに幅広い研究活動・政策提言に努められています。

IWCの07年アンカレッジ会議では、日本政府代表団は、IWC脱退も辞さずと宣言しましたが、この件も含め、捕鯨の将来像についても、小松さんに語ってもらいたいと思います。多くの皆様の御参加をお願い申し上げます。(文責・企画:谷川尚哉)

日時：2007年12月8日(土)14:00～17:00。

会場：法政大学(市ヶ谷キャンパス)外濠校舎2階S205教室。

外濠校舎は、法政大学で一番新しい校舎です。その名のとおり、外濠の側に建っています。校舎入り口には「セブンイレブン」があります。

会場アクセス：JR線・地下鉄線の市ヶ谷駅と飯田橋駅の間に位置しています。
両駅から、徒歩約10分です。

参加費：500円。

懇親会：例会終了後、講師を囲む懇親会がございますので御参加ください。